過労死のわけ知りたい

「和民」勤務の娘が自殺 両親「再発防ぎたい」

経営陣との面会求める

ワタミグループが展開する居酒屋チェーン「和民」に勤めていた娘を過労自殺で失った両親が、死後4年以上たった今も、「娘はなぜ死んだのか」と会社に問い続けている。自分と同じ思いをする人をなくしたい。それが、過労死遺族の思いだ。

「誰が、何が、娘を死に追いやったのか。ワタミは説明していません」

9月20日、東京都内のワタミ本社。過労自殺した森美菜さん(当時26)の父豪さん(64)が、ワタミ経営陣との面会を求める申入書を、社員に向かって読み上げた。娘の遺影を抱えた母祐子さん(58)が、険しい表情でうなずいた。

申入書には「私たちの時間は止まったままです」と書いた。「娘を死に至らしめたワタミの業務の実態を明らかにしなければ、再発防止はありえない」と豪さんは話す。

ワタミ社員(右)に、経営陣との協議申入書を読み上げる森豪さん(中央)と、美菜さんの遺影を抱える祐子さん(左)=9月20日、東京都大田区

美菜さんは2008年6月12日早朝、社宅近くのマンションから投身自殺した。ワタミの子会社に入社し、神奈川県横須賀市の「和民」で働き始めてから約2カ月後のことだ。

美菜さんの日記や、会社から取り寄せた勤務記録を見て、夫妻は驚いた。連日午後3時前に出社し、平日は午前3時半、週末は朝6時まで働いていた。休日も朝7時からの研修会への参加を求められ、リポートも提出しなければならなかった。手帳には「誰か助けて下さい」と書かれていた。

「一生懸命働いて、使い捨てにされたことを証明したい」。夫妻は08年8月、横須賀労働基準監督署に労働災害の認定を申請した。労基署は、美菜さんが適応障害になっていたことは認めたものの、仕事によるストレスがそれほどなかったとして、申請を却下した。

夫妻は、自力で労働時間の記録をつくり、神奈川労災保険審査官に不服を申し立てた。今年2月、月141時間の時間外労働があったと認められ、労災が適用された。

労災は認められたが、会社の労務管理を改めてもらい、新たな被害を防ぎたい――。そう思った夫妻はワタミに話し合いを申し込んだ。

しかし、話し合いに出席するのは、会社の代理人の弁護士。会社はどのような考えで社員の労務管理をしているのか、そこに問題はなかったのか。本質的な問いには答えていないと感じる。夫妻は渡辺美樹会長ら経営陣との面会を求めている。

ワタミの矢野正太郎広報グループ長は、「以前から労働環境の改善は経営の重要課題と認識している。労働時間の把握、管理も効率的に行うようにしている。心身面が不調な社員の相談窓口もある。森さん夫妻とは、これまで通り代理人を通じて話し合いを続けたい」という。

労災認定と時間外労働

過労による労働災害かどうかは、仕事によるストレスと労働時間を総合的に考えて判断される。時間外労働は、脳出血や心筋梗塞(こうそく)の症状が出る直前1カ月間に約100時間超だったり、発症前の2~6カ月間に月80時間を超えていたりする場合に、仕事と病気との関連が深いと評価される。

うつ病などの精神障害についても、昨年12月にできた新しい認定基準では、月100時間程度の時間外労働をしていた場合、仕事による負担が大きいとされる可能性が高い。

防止法に向け署名集め

家族の死を無駄にしたくないと思うのは、どの過労死遺族も同じだ。

07年に過労で脳出血を起こして亡くなった前沢隆之さん(当時32)の母、笑美子さん(63)=埼玉県加須市=は、隆之さんが働いていた外食大手「すかいらーく」の人事担当者と、年に1回面談する。社員の労働時間は長すぎないか、健康診断は受けているか、報告を聞くためだ。

面談は、隆之さんの死が労災に認められた後、会社と交渉して実現した。だが、笑美子さんから見れば、会社の取り組みのスピードは遅い。

今年7月の面談では、残業時間が月80時間を超える正社員が約30人いたことが分かった。上司からうそのタイムカードを記録するよう強いられた、という内部通報があったことも知った。報告に来る会社側の担当者は毎年代わり、再発防止に向けた話し合いができているとは思えない。

だが、笑美子さんは話す。

「それでも話し合いは続けます。会社に一件落着とは思われたくないので」

遺族らでつくる「全国過労死を考える家族の会」は、「過労死防止基本法」の制定を求める署名活動に取り組む。基本法の趣旨は、過労死・過労自殺を防ぐための総合的な対策づくりを国に義務づけるというものだ。

署名活動は昨年11月に始めた。目標は100万人。今年10月現在で31万人ほどが集まった。

東京の家族の会で代表を務める中原のり子さん(56)=東京都中央区=は1999年、小児科医だった夫利郎さん(当時44)を過労自殺で失った。知人を訪ねたり街頭に立ったりして、署名を呼びかけている。

「子どもや孫たちに、夫と同じことが起きてはいけない。そのために、法律を作って世の中を変えたい」

(牧内昇平)